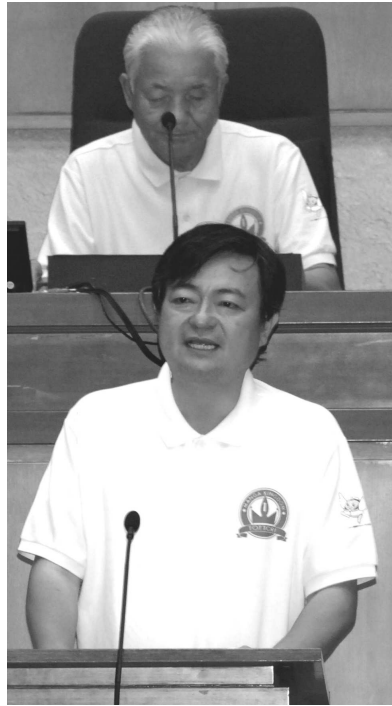


一般質問

地酒は鳥取の宝、支援を

知事「担い手育成事業見直す」

6月定例会の一般質問は「地酒支援策」にテーマを絞り、知事らと約1時間しっかり議論致しました。清酒の消費量も販売量も落ち込み、廃業する蔵元が相次いでいます。地酒は鳥取の大切な地域文化であり、伝統産業です。紙、紘などの業界も同様の問題を抱えていますので、地酒を取り上げること、伝統産業を守っていくことと訴えたかったのです。平井知事には担い手育成事業の改善などを答弁いただき、私と同じ思いであることに意を強くしました。



6月定例会も本会議で登壇しました。

客観的に見ても素晴らしい品質

「酒を醸すことは地域の誇りを醸すこと。酒造好適米比率、精白具合、アルコール添加の少なさは全国でもトップクラス。日本酒度も6・2と全国で2番目の辛口だ。本当に良い酒と思う。」

ところが、鳥取県の将来ビジョンには地酒が出てこない。鳥取の宝と位置づけて、しっかりと支援を」と知事に質すと、「全く同感で、『食のみやこ鳥取』から排除する意図は全くない。素晴らしい鳥取の酒です。PRをしっかりとやって、県内外、国内外で鳥取のお酒が出回

る姿を夢見ている」と答えていただきました。

手仕事担い手事業 来春までに見直し

次に議論したのは酒蔵の後継者の問題です。「研修費などを補助する手仕事担い手育成事業の実施要綱に、『研修受け入れ先の代表者の3等親以内の直系親族以外』という項目がある。県東部の蔵元を全部訪ねたが、みんな家族でのお仕事。陶芸や竹細工なども家内のところかほとんど。地域の産業を守るというのであれば、この項目を削除していただきたい」と提案

したところ、「もっともだ」と思う。要件を緩和し、実際に担い手として技術を研鑽し、継承していこうという方が使いやすい制度に変えたい。当初予算までによく検討する」と改善を約束いただきました。

産地呼称制度の導入検討したい

地理的表示の保護制度の提案も提案しました。「シヤンパー又地方で生産されたブドウで、瓶の中で2次発酵したものだけしかシヤンパンと名乗れません。これが産地呼称制度です。国は2012年に閣議決定をして検討を始めています」と話した後、私はアメリカの証明標章制度、フランス



知事には提案の多くに賛同いただきました

のAOC、EUのPDOとPGIを紹介。欧州での価格調査を示し、ブランド化に有効と提案しました。知事は「県のふるさと認証食品と考え方は一緒だが、材料や製法などの問題もあるので、関係者とよく話をさせていただき、現状の体制でいいのか意見交換をしてみたい」と前向きな答弁をいただきました。

まんが博覧会など イベントでPRを

「県主催のレセプションでもっと地酒を使って欲しい。まんが博覧会などのイベントで試飲や直売コーナーを設けては」と率先垂範を求めたところ、知事は「効果のある対応を取れるよう、職員一丸となって心がけていきたい」と言い切っていました。

最後に「新技術の開発、企業誘致も大事だが、伝統産業をしっかりと守ってこそ豊かな鳥取県になる」と更なる努力をお願いして質問を終えました。